

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成18年5月25日(2006.5.25)

【公開番号】特開2004-309804(P2004-309804A)

【公開日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【年通号数】公開・登録公報2004-043

【出願番号】特願2003-103528(P2003-103528)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

B 3 2 B 27/32 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

G 0 2 B 5/08 (2006.01)

G 0 9 F 13/14 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/02 B

B 3 2 B 27/32

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/00

C 0 8 L 101/00

G 0 2 B 5/08 A

G 0 9 F 13/14

【手続補正書】

【提出日】平成18年4月4日(2006.4.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

発泡剤を含有する熱可塑性樹脂組成物(a1)を含有し、次の式(1)で算出される発泡倍率を1.05~10倍とする基材層(1)の少なくとも片側に、オレフィン系樹脂及びフィラーを含有し、1軸以上の方向に延伸し、面積延伸倍率が1.5~80倍の範囲であり、全光線反射率が90%以上とするフィルム層(2)を積層貼合することを特徴とする光反射体。

発泡倍率 = $0 / \quad (1)$

(式中、 0 は真密度であり、 \quad は密度である。)

【請求項2】

基材層(1)が、発泡剤を含有する熱可塑性樹脂組成物(a1)からなる層と、フィラーを含有する熱可塑性樹脂組成物(a2)からなる層を含む、多層構造であることを特徴とする請求項1に記載の光反射体。

【請求項3】

発泡剤を含有する熱可塑性樹脂組成物(a1)およびフィラーを含有する熱可塑性樹脂組成物(a2)が、オレフィン系樹脂よりなることを特徴とする請求項1または2に記載の光反射体。

【請求項4】

フィルム層(2)におけるフィラーの配合量が、10~70重量%であることを特徴とする請求項1~3のいずれかに記載の光反射体。

【請求項5】

次式(2)で算出されるフィルム層(2)の空孔率が、15~70%であることを特徴とする請求項1~4のいずれかに記載の光反射体。

$$\text{空孔率(\%)} = \left[\left(\frac{\rho_0 - \rho}{\rho_0} \right) \times 100 \right] \cdots (2)$$

(式中、 ρ_0 は真密度であり、 ρ は密度である。)

【請求項6】

ダイより押し出し、フィルム状に形成した基材層(1)が熔融状態を保つうちに、その少なくとも片面上にフィルム層(2)を加圧融着させ積層貼合することを特徴とする請求項1~5のいずれかに記載の光反射体。

【請求項7】

基材層(1)とフィルム層(2)が、結合層(3)を介して積層貼合されることを特徴とする請求項1~6のいずれかに記載の光反射体。

【請求項8】

ダイより共押し出し、フィルム状に一体成形した基材層(1)と結合層(3)が熔融状態を保つうちに、結合層(3)上にフィルム層(2)を加圧融着させ積層貼合することを特徴とする請求項7に記載の光反射体。

【請求項9】

結合層(3)とフィルム層(2)を、接着剤層または粘着剤層を介して積層貼合することを特徴とする請求項7に記載の光反射体。

【請求項10】

請求項1~9のいずれかに記載の光反射体を用いたバックライトユニット。

【請求項11】

請求項1~9のいずれかに記載の光反射体を用いた電飾看板。

【請求項12】

請求項1~9のいずれかに記載の光反射体を用いた照明装置。